

市指定無形民俗文化財

## 日野の祭ばやし



神社の祭礼時に演奏されてきた祭ばやし。日野市域に伝わる祭ばやしは、東光寺地区に嘉永2年（1849）頃に伝わったものが始まりと考えられています。幕末には一時衰退したものの、明治5年ごろに目黒から弥一という師匠を招き、このはやしが以後、日野市域に広がっていったようです。以後、150年近く経過しますが、師匠から習い、覚え、弟子に伝えていくという「三世代」の連鎖によって伝承・継承されてきた生きた文化資産といえます。

また「日野の祭ばやし」は、市内各神社の祭礼にとどまらず、自治会のお祭り等には欠かせないものであり、地域にとってのかけがえのない文化財として、郷土愛の高揚や地域における絆の形成など地域文化の向上にも貢献してきていること、また、今後も継承されるべき「地域の生きた芸能」として、無形民俗文化財に指定されました。

保存団体として、7団体が指定され、これらの団体では児童・生徒も稽古に励んでいます。

**伝承地** 日野市域

**保存団体** 東光寺囃子連、日野囃子保存会、豊田囃子保存会、四ツ谷睦囃子連、東町囃子連、日野囃子愛好会、同志会囃子連

写真は平成26年3月29日に日野中央公園で行われた「スプリングフェスタひの」で披露された時のもの。

平成26年3月28日指定